令和５年度　第１回両磐保健医療圏の地域医療を守る懇談会議事録

日　時	令和５年８月２日（水）　18：30～20：00
場　所	一関地区合同庁舎　別棟　第４会議室
出席者	委員 29 名中、会場出席 20 名、オンライン出席 3 名、欠席 6 名 オブザーバー５名中、会場出席 4 名、オンライン出席 1 名 事務局 11 名（保健所 7 名、県医療政策室 1 名、県医療局 3 名） 報道機関 2 社（岩手日報、岩手日日）

１　**開会**（福士次長）

２　**挨拶**（木村所長）

３　**出席者紹介**（福士次長）

出席委員及びオブザーバーについて、出席者名簿により紹介

４　**報告**（福士次長）

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更等に伴う対応及び最近の感染動向について

５　**議事**

（１）令和５年度両磐保健医療圏の地域医療を守る懇談会の進め方について

○　資料３により事務局（保健所）から説明

○　質疑等なし。

（２）次期岩手県保健医療計画（R6-R11）について

○　資料１及び資料２により事務局（県医療政策室）から説明

○　資料４及び参考資料により事務局（保健所）から説明

○　佐藤善仁委員（一関市長）

資料１の３ページ目は入院の医療需要、4 ページ目は外来の医療需要とあるが、これは両磐に住んでいる方がどれだけ入院・外来しているか、あるいは住んでいる場所に限らず両磐の医療機関でどれだけ入院・外来が発生しているか、どちらになるのか。

○　事務局（医療政策室）

入院・外来患者数の増減率については、圏域の中での医療機関の入院・外来の推計であり、住民数ではない。

○　佐藤善仁委員（一関市長）

この３ページ、４ページの資料は、両磐に住んでいる方が、どこの病院かはわからないけども入院している数であれば医療需要だと思うが、盛岡や中部の医療圏の方もいて、両磐圏域にこれだけの方が入院しているかということであれば、これは医療供給ではないか。

両磐エリアで発生している入院や外来であれば、需要と違うのではないか。

○　事務局（医療政策室）

国の方もここまで細かくはデータ出していないが、全国のマクロのデータでこういった形で医療需要の変化として資料を整理している関係もあり、今回このような整理をしている。

お話があった視点もその通りかと思うので、分析はこれから詳細に見ながら検討していくが、ご意見の方は参考にさせていただく。

○　佐藤善仁委員（一関市長）

これは、最後に次期保健医療計画策定の中でベースになる指標であり、医療需要ではなく岩手県が持っている医療資源の供給だと思うので、誤解のないようにすべきだと思う。

○　佐藤耕一郎委員（磐井病院院長）

疾病・事業別医療圏の設定について、例えば周産期医療圏の設定に当たり、どのようなインセンティブを与える予定なのか。また、第４章第３節医師確保計画、薬剤師確保計画とあるが、薬剤師についてどのような施策なのか。

○　事務局（医療政策室）

今回、疾病事業の医療圏を定めるということで予定をしており、先ほどお話があった周産期についてはすでにもう４圏域で設定をしている状況なので、基本的に今の４圏域が周産期母子医療センターを中心に設定をされている状況となっている。

インセンティブについては、広域化を進めていく中で、例えば医療機器の配置を行うものについて少し重点的に配置をするとか、冒頭説明した専門医制度が始まっている関係もあるので、そういった専門人材の育成の観点で、広域化を進める際に重点化する医療機関に重点的配置をしていくという考え方をブラッシュアップしながら検

討していく予定としている。

医師確保計画については、1回目の計画を令和2年に作っており、国の方から示されている医師偏在指標を下位3分の1から脱却するために、どういった形で医師確保を進めていくかを計画としてまとめていくこととしている。

薬剤師については、今回新たに国から偏在指標が出されており、医師確保計画と同様に下位を脱するためにどういった確保を進めるかという視点で計画をまとめている。

なお、本県では薬局薬剤師より病院薬剤師が足りていない状況なので、病院薬剤師を確保するための施策について今後取りまとめを予定している。

○　佐藤耕一郎委員（磐井病院院長）

薬剤師確保の具体的な計画を聞きたかった。

なぜ東北地方の病院で働く薬剤師が少ないかというと、国公立大学の薬学部が西の方にばかりあって、東にはないためである。

みんな奨学金を借りており、卒業したらその奨学金を払わなくてはいけないから、すぐ払える薬局とかに勤めてしまう。

例えばその奨学金を県が払ってあげて、それを薬剤師が県に返済していくとか、そういう計画のようなものを作っていくのかと思って聞いた。

○　事務局（医療政策室）

今お話があった施策について、健康国保課の方で検討している状況である。

全国で見てもやっぱり薬局薬剤師が多いが、病院薬剤師が少ないことが全国的な課題になっており、給与の問題や奨学金の問題もあることから、国の方も検討しているところであり、県ではお話があったような奨学金制度も含めて、現在検討を進めている。

○　佐藤耕一郎委員（磐井病院院長）

東北は私立大学が多いので、奨学金を返さなくてはいけないということで大変な思いをするので、薬局に勤めてしまうというのが現状であり、何とかよろしくお願いしたい。

先ほどの疾病・事業別医療圏について、医療機械を病院に多く与えるという理解でよろしいか。

○　事務局（医療政策室）

医療資源が限られている中で、引き続き高度で専門的な医療をどのようにして提供していくかを検討する必要があり、医療圏を広域化、疾病事業別に設定していく中

で、どういった形でより良く配置できるかを考えていきたい。

（３）地域医療構想における有床診療所の具体的対応方針について

○　資料５により事務局（保健所）から説明

○　質疑等なし

（４）紹介受診重点医療機関の指定について

○　資料６により事務局（保健所）から説明

○　出席委員から、県立磐井病院を紹介受診重点医療機関として公表することについて異論がないことを確認した。

（５）公立病院経営強化プランの検討について

○　資料７により県医療局及び一関市病院事業管理者から説明

○　質疑等なし

（６）その他

【全体を通しての質疑等】

○　長澤茂委員（一関中央クリニック名誉院長）

岩手県の医師偏在指標は、新潟と肩を並べてワーストである。

先ほどお話があったが、非常に広い県土を有する中で、これは岩手県ならではの計画だ、これは岩手独自で、他県に対して胸を張ってやっていける、地域を守る計画であるということを教えていただきたい。

○　事務局（医療政策室）

疾病事業別の医療圏については、導入をしている都道府県もあるが、今回本県の周産期と精神科の救急については、すでにやっているところをもう少し拡大できないかというところで検討している。

これは、県土が広いということと、医師がすぐには増えない中で、どうやって医療のサービスを維持していくかというところで考えたものである。

二次保健医療圏は、これまでは一般的な入院に係る医療を完結するために、県立病院を中心にしながら、圏域内ですべて完結できることとしていた。

昨今の人口減少、少子高齢化、医師不足の関係もあり、いずれ二次保健医療圏として地域密着で必要なものについて、県土が広い岩手でもしっかり提供できるように考

えていきたいと思っている。

併せて、医師が足りていない中で、高度で専門的な医療、コロナがあってデジタル化も進んでおり、それらを活用しながら、引き続き質の高い医療を可能な限り県内で引き続き受けられるように体制を組んで、本県の県立病院が全国で一番多いということは強みでもあるので、県立病院や派遣いただいている関係大学のご協力をいただきながら、本県の医療をしっかりと支えるように、今回の医療計画を作っていきたいと思っている。

○　長澤茂委員（一関中央クリニック名誉院長）

119 番に救急要請する前に相談する＃7119 番という救急安心コールは、東北では宮城と福島の 2 県しかやっていないと思うが、そういうものを使う方法はないか。

○　事務局（医療政策室）

コロナの時期に、自宅で療養されていた方が救急車を呼ぶかどうか自ら判断することは難しいことから、宮城県などでは＃7119 番という大人の救急電話相談事業をやっていた。

この事業についてもやれるかどうかも含めて、今の医療計画を策定する中で検討していきたい。

＃8000 番の小児用電話相談事業は、コロナの感染拡大もあったことから、先行して今年の 2 月から 24 時間対応に延長して対応しているが、ここ何ヶ月か見ていると、この事業効果もかなりあるので、その辺も見ながら＃7119 番についても検討していきたい。

○　長澤茂委員（一関中央クリニック名誉院長）

岩手で考えなくてはいけない問題は、やっぱり高齢者救急であり、在宅医療連絡会でも話題になっている。

次期医療計画でも人材確保は大きな中心になっていると聞いているが、若い方のみならず、救急の先生方に負担がかかっている。

来年は働き方の時間も上限が設定されることもあるので、前向きに高齢者救急を考えていただきたい。

○　寺崎公二委員（一関市医師会長）

疾患別専門的な形で広域化を目指していくというお話があったが、秋田県では８つの医療圏を３つに集約するという話を聞いた。

これだけ人口減少していく中で、これだけの数の県立病院をこのまま維持して、役割分担して分散化しているというのは果たして方向性として正しいのか。

医師の確保といった場合に研修医が集まるかどうか、大きな施設設備を持って、いわゆるロボット研修も含めて、そういった機能が優れていないと研修医も集まらない。

そして県立病院の医師も高齢化が進んでいる。若いドクターがこない。若いドクターのためには高機能の専門的な大きな病院が必要になってくる。

よって、県立病院をある程度集約して、大きな病院を作らなければ医者は集まらないのではないか。

このまま多くの県立病院を分散した形で、そこに医者を割り振りしていっても全部共倒れになる可能性もある。

県の医療計画の中で、県立病院のあり方、全国一あるこの県立病院を維持するのが本当に方向性として正しいのかどうか、それをもう少し詰めて考えて、思い切って集約するという方向性はないのか、その辺も検討していただきたい。

○　事務局（医療政策室）

確かに医師が不足しており、この広い県土で県立病院も人口減少の中で今後維持できるかという視点は持ち続けなくてはいけないと思う。

秋田では８医療圏から３医療圏に見直すということだが、秋田県の方に聞いたところ、基本的な医療圏として見直すが、医療機関の配置でいうと、本県のように県立病院が多い環境ではないので、医療機関の再編や集約については長期的なスパンで医療機関側の視点で自主的にやっていただくとのことであった。

本県については、やはり県立病院が中核となることから、今回、二次保健医療圏と疾病事業別の医療圏についても、医療局の方と連携して検討している。

県立病院を今後どうするかという点については、疾病事業ごとにしっかり研修医が集まるような魅力ある病院にすることと、病院がない地域にも配慮しながら、効率的な経営となるよう、医療局の方で経営計画の検討をしている。

いずれ、医療計画と県立病院の経営計画は一体的なものと考えているので、引き続き地域の意見を伺いながら、連携してしっかり対応していきたいと思っている。

【管内選出県議会議員から】

○　岩渕誠　県議会議員

平泉と一関市の市町村要望の中にもあったが、県境地帯の医療体制について、県という枠にとらわれず、宮城の県北も含めて、どういった体制を構築していくのかということは、この地域の固有の課題であり、今後の医療の体制構築のために、県をまたいだ議論というのも本格化させていかなければならないと思う。

こうした、この地域の特色を生かし、この地域の医療をどのように支えていくのかということは、喫緊の課題だと思う。

我々もしっかりと対応して参りたいと考えている。

○　飯澤匡　県議会議員（オンライン）

やはり、この一関地方は、地域性が他の地域とはちょっと異なる地政学的な問題があると思うので、その点はしっかりこれから議論をしていかなくてはならないと痛感している。

○　高田一郎　県議会議員

この間、新型コロナの感染拡大と戦ってきた中で、いろんな問題が浮き彫りになったと思う。

新しい保健医療計画を作る上で、この新型コロナの感染対策をよく検証して、それを次期計画に生かしていくということが極めて大事だと思うので、そういった議論がもう少し必要ではないか。

第８波でも、高齢者施設で亡くなった方もいたが、同時に入院患者の８割９割は県立病院も含めた公的病院で対応したということ、ネットワークを活用して県民の命を救ったことなど、公的病院が大きな役割を果たしてきたというのも事実であり、その中で離職せざるを得ない介護の現場もあったが、その点も含めてしっかり検証する必要があるのではないかと思う。

今後の感染対策を考えたときに、平時からチーム医療としての訓練をしていくことが大切だろうなと思った。

医療圏の問題については、私はやっぱり当面は今の地理的な状況、患者の通院の状況から見て、今の医療圏を維持するということが大事なのかなと思うし、同時に新たなこの３疾病の事業別医療圏も検討に値すると思うが、なぜ必要なのかという情報提供をし、専門家の意見も聞きながら、結論を出していくことが非常に大事だと思う。

やっぱり保健医療計画の一番の柱になるのは人材の確保だと思う。

働き方改革の問題がいろいろ出ているが、国は医師を全く増やさない中で、上限規制を行い、しかもその上限規制が、過労死の二倍を超えるような、働き方をされるという、やはり問題があると思う。

岩手も、医師不足の解消のために頑張っているが、地方自治体ではなかなか難しいと思うので、これは政治問題として、しっかり取り組んでいきたいと思っている。

○　佐々木朋和　県議会議員

資料の中で、岩手県が全国よりかなり早いスピードで人口減少に加えて、高齢者の人口も減っていくというのがまざまざと出ており、それを踏まえた意見が出たと思う。

先生方からの岩手独自の取り組みなどの話は、現場を踏まえたご発言だったと思っている。

この会は、病院の側や住民の代表の皆様など様々な立場の方が参加し、同じ情報、

同じ危機感を持ちながら、供給側と需要側の両方で、どのような形が良いかを考えていく、大変重要な機会だと認識している。

我々議員も皆様方の議論を真摯に受けとめながら、議会の場でよりよい方向を探っていきたいと思っている。

※　神﨑浩之　県議会議員は途中退席。

６　閉会（福士次長）